

未来創造「新・ものづくり」特区

[指定：平成23年12月、認定：平成24年11月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(4+4)/2=4$

4.0

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	産地力の強化	153%	5
2	企業立地による地域産業の振興及び雇用の増大	65%	3

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 1 + 4 \times 0 + 3 \times 1 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 2 = 4$

4.0

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
 (例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.0

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(3+2.5+4)/3=3.2$

3.2

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

3.0

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

2.5

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.0

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.3

・農業に参入する企業が一定程度存在し、相当程度農地の活用が図られており、地域内には農業の活力があることがうかがえる。こうした活力を活かして全体の農業振興が図られることが期待される。この領域では全国を代表する優良事例として高く評価することができる。

・参入企業の農業経営のフォローアップを今後行って、彼らの定着度をより強固なものとすると同時に、規模拡大の支援を行っていくことが期待される。

・企業立地のポイントは人材にあるので、研究開発や大学等との連携を今後考えてみてはどうだろうか。

・評価では、小規模な企業立地が多かったために目標値を下回ったという記述があるが、当該特区の目的が新産業創出にあるならば、大規模事業所にこだわる必要性はないと思われる。企業誘致の戦略次第なのでそれを明確にされたい。

・多くの目標値に「累計」の数字が設定され、これだと単年度の実績に注目した評価がしにくいことから、単年度ごとの分析が必要であろう。

・平成30年度の農畜産物販売額が平成29年度と比較しても、また、当初(平成27年度)と比べても下回っている点が気になる。一時的なものか構造的なものかは今後の推移によって図る必要がある。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.3

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(4+3.2+3.3 \times 2) \div 4 = 3.5$

3.5

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。